

# 安全って、本当ですか？

2013年11月3日  
ニュース第19号

## 武田薬品湘南新研究所を問う！

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/>

### 連絡会メンバー

## 遺伝子組換え排水漏えい問題で、長谷川社長を追及



—株主総会の議長席に座る、武田薬品長谷川閑史社長—

さる6月26日、大阪府立体育館に於いて、武田薬品第137回株主総会が開かれた。武田問題対策連絡会から3名が株主として参加した。当日は雨のため、入り口でビラの配布はできなかったが、総会会場では、武田問題対策連絡会のメンバー2名(小林、木村)がそれぞれ発言し、湘南研究所で発生した遺伝子組換え排水問題で、長谷川社長を追及した。

2名の質問事項は、①湘南研究所のバイオ排水漏えい事故の「外部調査会社」(ERM日本)の名前の公表、②バイオ排水の集中滅菌方式の文科省省令違反問題、③使用中止となった動物実験焼却炉の役員賞与による損害補償問題等であった。長谷川社長の答弁は、①は、相手の会社との約束で公表しないことになっているとして、既にHP検索で明らかになっているERM日本社の名前を秘匿し続けた。②の集中滅菌方式は武田が長年やってきた方式で、役所や文科省から何の問題の指摘も無いと開き直り、③の実験動物焼却炉の廃炉問題は、既に決算処理が済んだことであり役員による費用補償は必要ない、とすべて要求を拒否する素っ気ない答弁だった。市民に対するリスクコミュニケーションなど何処吹く風、多数の外国人役員を従え、政界や役所に顔を利かす長谷川社長の傲慢な態度が目につく総会だった。しかし、焼却炉の役員による補償要求の質問については、会場の株主から賛同の拍手が巻き起こり、総会に出席していた4000名の株主にアピールすることができました。

(小林 麻須男)



# 法令違反の実験施設は・・・ダメ

## 鎌倉市長にたいし「湘南の環境を守る会」が公開質問状を提出

以前2011年11月30日に、武田薬品工業株式会社湘南研究所で、生きた遺伝子組換え生物等を含む実験廃液の漏洩事故が起きました。事故の起きた処理施設自体が法令違反の施設であるとする当会らの告発に対し、これまで鎌倉市長は、当該事業所の地元自治体であるのにも拘らず実験施設の構造や使い方等の実態調査を怠ってきました。

事故原因解明が不徹底であることから、鎌倉市長にたいし湘南の環境を守る会（2008年7月に研究所周辺の市民が結成以下、守る会と記載する）が公開質問状を提出しました。

研究所自身が「安全だ」と言っても、カルタヘナ法違反の不活化処理施設は生物多様性の確保が不可能な危険な施設であり“使用はダメ”なのです。



鎌倉市役所(市のHPから転載)

## 実験施設の危険性と違法性を市民がくり返し訴えたが、市長から回答なし

翌2012年4月5日に、守る会も団体加盟する武田問題対策連絡会が市長へ書面で提言し研究所の不活化施設の危険性を具体的に指摘して処理施設をオートクレーブに切りかえるべきことを伝えましたが回答はありませんでした。本年2月12日に当会(守る会)は武田問題対策連絡会の報告書を添付し再び市長へ設備の危険性に加え具体的に法令条文を示し違反施設であることを伝えましたが、やはり回答なし。

## 「情報公開を求める」との市民要請に、研究所担当は怒りの声を荒げ恫喝

守る会を含む武田問題対策連絡会代表らが研究所にたいし、事故を起こした施設について情報公開するよう要求したが研究所担当者はこれに対し不当にも「何の権限が有って公開要求ができるのか！」と大声をあげて会代表らを恫喝し、道理にかなった市民要求を頭から拒否するありさまでした。

## 市の環境部は無断で“当会の市長宛手紙”を、研究所担当者に見せる

さらに最近市長宛に守る会が出した5月17日付の要請文（危険性調査のため市民要請に応じ研究所にたいし実験設備の情報公開請求と市自体による事故の検証）、続く7月11日付再要請文（同様の主旨）を提出したところ、鎌倉市の環境部は当会の2通の要請文をEメールに添付して武田薬品と藤沢市役所に送付（提出者の個人名や連絡先住所といった「個人情報」の墨塗りもせず）してしまった。その上に市民（守る会）への回答案についても如何にはぐらかすかをメールや電話で相談していました。

市民が研究所のバイオ事故の危険性について研究所を追求しているのにかかわらず、行政側の誤った行為であり、合わせて市長にたいし厳しく追及しています。

以上の経過を含め公開質問状の本文は、武田問題対策連絡会のHP(“武田問題”で検索できます)をご覧ください。

## バイオ研究所事故の再発回避を願って・・・市長の前向きな回答を期待

これまで同じ要請を繰り返してきました。それは要請することで周辺住民を始め市民にバイオ災害が及ぶ事態を少しでも避けることができると考えての事でした。

公開質問状の内容はこれまでの経過を集約したものです。守る会が公開質問状に期待していることは湘南研究所の問題の実験施設に対して地元の自治体(2市および神奈川県庁を含む)が是正の勧告を行い、研究所が是正することで事故発生の危険を少しでも小さくすることです。 (平倉 誠)

